

松戸駅周辺の将来像について

千葉県松戸市 街づくり部

・ 自立した新しい大都市近郊型都市モデルの創出	…	1
・ 松戸駅周辺の整備方針	…	2
・ 松戸駅周辺の増進すべき都市機能イメージ	…	3
・ 松戸駅周辺の公共・公益的施設整備イメージ	…	4
・ 新拠点ゾーンでの取り組みイメージ	…	5
起業支援・企業育成	…	6
サテライトオフィス/シェアオフィス誘致	…	7
子育てサポートの充実・就労(リカレント)支援	…	8
多様な世代が暮らす住環境整備	…	9
クリエイティブシティの推進	…	10
大学連携による地域課題の解決	…	11
最先端技術の活用	…	12、13
地形と緑の豊かさ	…	14
文化的資源	…	15
防災性の向上	…	16
災害時の対応	…	17

【20190411】



自立した新しい大都市近郊型都市モデルの創出

●都市再生に取り組む基本的考え方

都心3区への一極集中是正
日本全体で人口減少が進むが、**都心3区への転入超過は依然として継続**。首都直下型地震などの**災害リスク軽減が喫緊の課題**。

都市への投資を促す質の高い都市再生
未来への発展基盤の準備・構築に向け、国民生活や経済の基盤である都市へ、いかに戦略的に、**質の高い投資を呼び込むかが課題**。

●都市再生基本方針

質の高い生活のできる大都市
都市は経済活動の場であるとともに人々の生活の場であるため、**国際的に質の高い生活環境の確保が重要**。この際、特に**大都市における企業等の集積のデメリットをできる限り抑制**することが重要。

災害に強い大都市
東日本大震災の経験から得られる教訓を踏まえ、大規模災害が発生した場合、**甚大な人的・経済的被害等につながらないようにすること**、また、**都市機能を安定的に継続**できるように配慮することが必要。

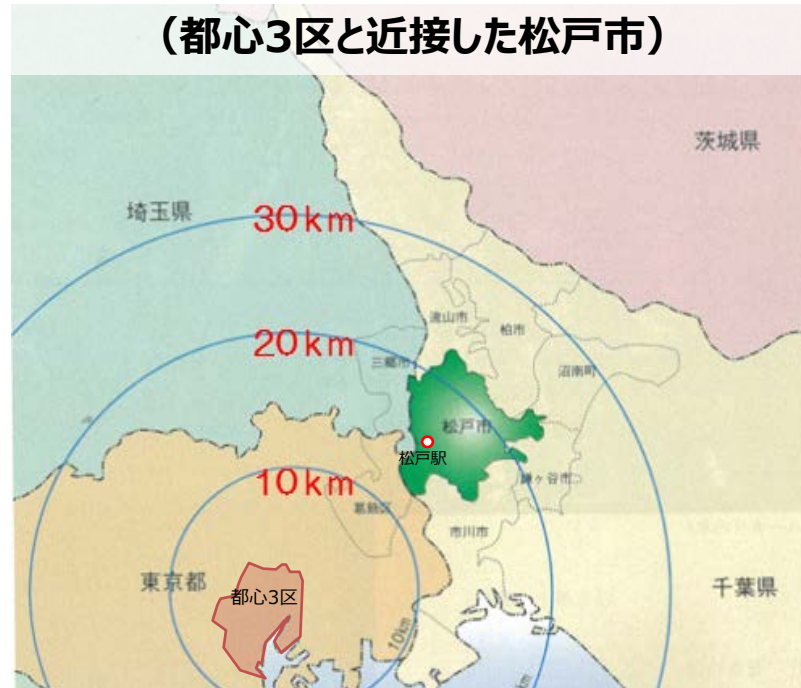
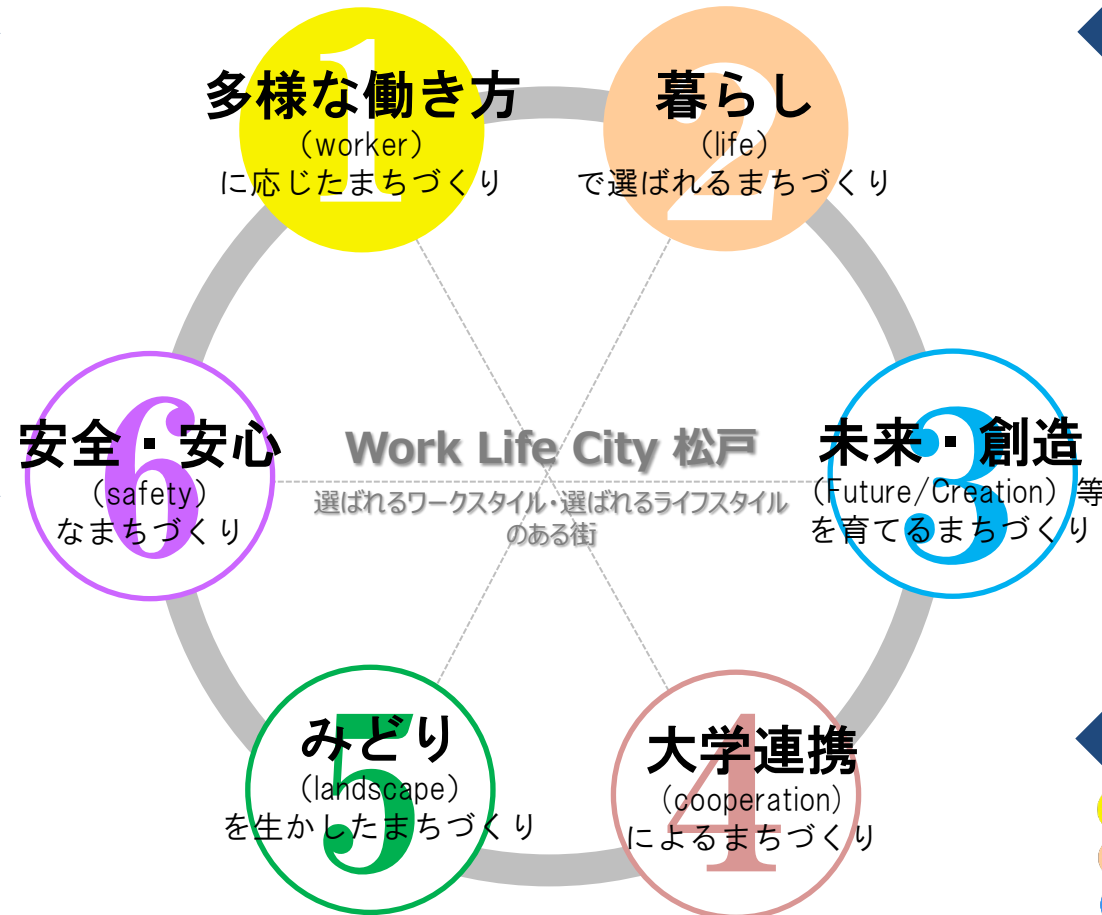
●現在の社会の潮流

働き方改革によるライフスタイルの変化
2000年代以降、都心部のライフスタイルは都心近郊の郊外居住から、都心居住による職住近接へと変化。近年、**働き方改革の推進により**、時間や場所などに制限されず柔軟に働ける環境整備が進みつつあり、今後の**ライフスタイルは大きな変化が予想される**。

高度外国人材の受け入れ
在留期間や活動内容等の優遇が得られる在留資格「高度専門職」の整備や「日本版高度外国人材グリーンカード」の創設など、経済成長等への貢献が期待される専門的知識、技術を持つ外国人の呼び込みが進む。

「未来投資戦略2018」（平成30年6月15日閣議決定）

- K P I
2020年末までに10,000人の高度外国人材認定を目指す。
さらに、2022年末までに20,000人の高度外国人材認定を目指す。



6 交通結節点に近接した拠点（松戸中央公園）の再整備
・1日約30万人が利用する松戸駅は鉄道・駅の交通結節点。大規模災害発生時に都市機能の継続と滞留者等の安全を確保する防災拠点が求められる。

●松戸市の上位計画

松戸市都市計画マスタープラン（平成11年）
・松戸駅周辺地区は、歴史的な中心性、広域的な商業地としての機能の集積、交通結節点であることの有利さなどから、商業、業務、文化、住宅などの機能が高度に集積した広域的な「中心商業・業務地」と位置づけ、交通基盤の整備や適切な高度利用、都市機能の誘導、歩行者空間の整備などにより育成する。

松戸駅周辺まちづくり基本構想（平成27年）
・区域を「新拠点ゾーン」「商業・業務ゾーン」「都心居住ゾーン」に区分するとともに、「シンボル軸」及び「水・歴史資源」を加えた5項目について、取り組みの方向性を整理。

松戸市立地適正化計画（平成30年）
・都市基盤整備と合わせて商業・業務・文化機能の集積を図るとともに、交通結節点機能の強化を図り、都市機能の更新を進め、回遊性の高いまちの形成を図る。

●松戸市のポテンシャル

- 1 起業支援・企業育成の取り組み開始**
- 2 サテライト/シェアオフィスの立地優位性**
 - ・企業誘致・育成に向けたインキュベーション施設を開設。
- 3 高い交通利便性や潜在的に高い労働力は企業のサテライトオフィス設置ニーズを満たしている。**
- 1 子育てサポートの充実**
 - ・保育施設の充実や保育士手当等、子育て環境が充実。「共働き子育てしやすい街ランキング2017」（全国編）1位。
- 1 就労（リカレント）支援**
 - ・女性の就労を支援する窓口が整備。
 - ・高学歴専業主婦比率が高く、潜在的労働力がある。
- 2 多様な世代が暮らす住環境整備**
 - ・都心隣接の住宅地として成長してきた良好な住環境。
 - ・三世帯同居・近居世帯への補助支援及び空家活用。
- 1 クリエイティブシティの推進**
 - ・海外アーティストやコンテンツ産業の誘致、育成支援。
 - ・コンテンツ事業者の立地、イベント展開。
- 4 市内4大学と包括連携協定**
 - ・子育て支援に関する地域サポート人材の育成。
 - ・市内4大学と地域社会の発展と人材の育成ための協定締結。
- 2 地形と緑の豊かさ、文化的資源**
 - ・高低差のコントラストが明瞭な地形構造。
 - ・新拠点ゾーン開発に伴い、松戸中央公園の再整備（約1.8ha）を予定。
 - ・かつて、先駆的なデザイン教育を行っていた旧千葉大学工学部（現千葉大学工学部）が立地していた。
- 5**

松戸の文化や産業を継承しつつ、 新たなビジネスやライフスタイルを創出するWork Life City

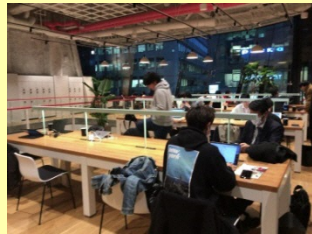
1
多様な働き方

松戸型ワークスタイルの実現

- **働き方の自由度を高める多様なオフィス環境**
 - ・都心と郊外を結ぶ結節点という立地を活かし、従来型のオフィスだけでなく、都心オフィスのサテライトやシェアオフィスを誘致。都心ワーカーが通勤時間短縮により充実したプライベート時間を過ごせる環境を創出。
- **子育て中の家族も働きやすい環境整備**
 - ・子どもを見守りながら働けるキッズスペース付シェアオフィスなど、子育てサポートが充実したオフィス環境を創出
 - ・子育てサポートの充実により、女性活躍企業の立地を推進。
- **アクティブシニアの雇用創出**
 - ・エリアマネジメントによるまちの維持管理においては、健康維持や、やりがいにつながる環境づくりを推進し、アクティブシニアの雇用機会を創出。
- **外国人ワーカーも働きやすいビジネス環境**
 - ・多言語での情報提供や生活支援による言語バリアの解消。



キッズスペース付シェアオフィス「RYOZAN PARK 大塚」
(出典：東京都創業NET HP)



WeWork原宿



2
暮らし

多様な暮らしを可能にするライフサポート

- **多様な人々が暮らしやすい環境整備**
 - ・駅に近接した本庁舎跡地や文化施設跡地を活用し、多様な世代の暮らしをサポートする都市型住宅の整備
 - ・誰もが住みやすく、暮らしやすい環境づくり。
- **“働いていない”時間も豊かに過ごせる環境整備**
 - ・都心通勤者が休日や仕事終わりに立ち寄れる空間の創出。
 - ・シニア世代が余暇時間を充実して過ごすことのできる空間の創出。
- **子育て世代の公私をサポートする支援機能**
 - ・“小1の壁”の改善に向けたワーキングマザーの就労支援、学習塾と連携した放課後の居場所と新たな教育の場の創出。
 - ・サテライトオフィスと連携し、自宅近接で働ける企業とのマッチングや就労支援により、潜在的な女性労働力を生かせる仕組みを構築。



明光キッズ (出典：明光キッズHP)



女性向け創業スクール (出典：流山市公式PRサイト)

3
未来・創造

クリエイティブシティを推進する 新たなビジネスの創出

- **成長産業が集積し、イノベーションを創出するビジネス環境**
 - ・海外アーティスト・クリエイターや、ドローン技術をはじめとした先端テクノロジーのスタートアップ企業、コンテンツ事業者に向けた活動拠点の提供や創業・成長促進、企業とのマッチング等による包括的な支援。
 - ・異分野・異業種共創による新たなビジネス創出。
 - ・地場産業を生かしたビジネス創出。
- **先端カルチャーを発信するイベント展開**
 - ・クラウドファンディング等を活用しながら松戸に集まるクリエイターや成長企業の異業種コラボイベントを開催し、国内外へ新しいカルチャーを発信。
 - ・コンテンツ産業が集積する渋谷・原宿周辺（千代田線）やJOBANアートライン（常磐線）等の鉄道沿線のつながりを生かし、クリエイティブシティとしての拠点性を強化。



品川産業支援交流施設 SHIP
(出典：SHIP HP)



科学と芸術の丘2018
(出典：松戸市文化観光国際課)



4
大学連携

大学発のビジネス創出と 人材確保

- **国際的研究機能の強化**
 - ・市内4大学をはじめとする、産官学が連携したネットワーク体制の強化
- **新規ビジネスの創出**
 - ・専門的な知識やノウハウを生かした課題解決型の人材育成や先端技術(ドローン等)等による産業支援、大学発ベンチャー等の新たなビジネス創出。



慶應藤沢イノベーションビル
(写真提供：中小企業基盤整備機構)



5
みどり

松戸スタイルの創出に 向けた公園や地域資源の活用

- **パークマネジメントの展開**
 - ・まちの魅力とにぎわいを創出するイベント開催。
 - ・新拠点ゾーンに整備される商業・業務・文化機能をつなぐHUBとして公園施設を整備し、回遊性とにぎわいを創出。
- **歴史や文化を活かした地域資源の活用**
 - ・旧千葉大学工学学部（現千葉大学工学部）がかつて立地し、デザイン教育のはりとして日本の工業デザインを支えてきたDNAを次世代へ継承



南池袋公園

6
安全・安心

災害に強い都市基盤の整備

- **広域的な防災拠点**
 - ・被災者や帰宅困難者の安全確保。
 - ・災害発生時等には、エネルギー供給による都市機能の維持
 - ・リダンダンシーを確保した都市機能の整備により首都圏本社のバックアップオフィス機能を強化
 - ・陸路のみならずドローン等による空路を活用した災害支援。



水戸市庁舎
(出典：国交省
防災拠点等となる建築物の機能継続に係る事例集)

松戸駅周辺の増進すべき都市機能イメージ

松戸駅①②

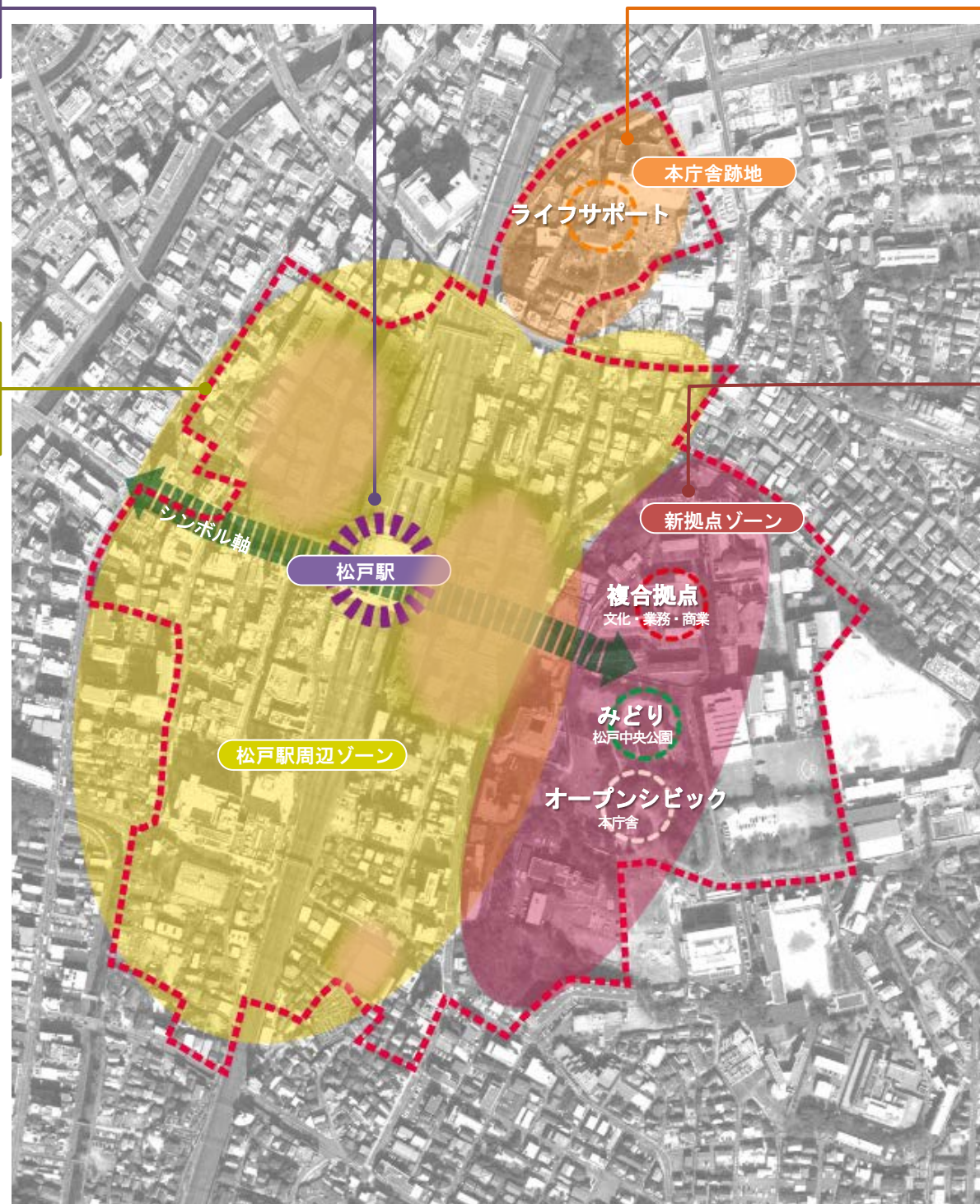
本市の玄関口として、
交通結節点となる交通・商業のコア

- ・鉄道やバスなどに乗り継ぎしやすい交通結節点の強化
- ・駅に隣接した利便性の高い商業機能の充実

松戸駅周辺ゾーン①②③

既存商業の集積を生かし多様な
ニーズに対応する暮らしのゾーン

- ・駅西口周辺の複合エリアの商業機能を強化
- ・子育て世代をはじめとして誰もが住みやすい都市型住宅の誘致
- ・多様な働き方を支える居住機能と子育て・生活支援機能の強化
- ・地場産業を生かした新規ビジネスの創出
- ・クラウドファンディング等FinTechの活用による空き店舗等の有効活用や新規ビジネスの創出
- ・空き店舗等の活用やリノベーションによるスタートアップ向けオフィスの整備
- ・海外アーティストやコンテンツ事業者の活動支援



本庁舎跡地②

多様な世代が
住みやすいライフサポートコア

- ・子育て世代をはじめとして多様な世代が住みやすい都市型住宅の誘致
- ・多様な働き方を支える居住機能と子育て・生活支援機能の強化

新拠点ゾーン①②③④⑤⑥

文化・業務・商業施設と連携し
多様な活動を可能とする拠点ゾーン

多様な働き方・暮らし方を可能にする機能

- ・都心に近接する立地を活かし、働き方の自由度を高めるサテライトオフィスやシェアオフィスなどを含めた業務機能の強化
 - ・多様な働き方を支える居住機能と子育て・生活支援機能の強化
 - ・仕事・暮らし・学び・遊びが隔てなくつながるライフスタイルを実現する場として、文化・商業機能の充実・強化
- 松戸市が推進するクリエイティブシティの実現に向けて、インキュベーション機能等を強化**
- ・大学発ベンチャーや文化・芸術・先端テクノロジー等のクリエイターが働く場、交流の場の創出
 - ・再就職を目指す女性やアクティブシニアへの就労支援機能
 - ・ドローン活用のトップランナー都市となるため、産官学連携により、ドローンに関する先進的な知見を集積するとともに、災害等有事の際における支援物資等の輸送手段として、新たに空路の整備に取り組む
 - ・大規模災害等発生時に松戸駅周辺の被災者や帰宅困難者の安全を確保する都市防災機能の強化
 - ・首都圏本社の事業継続が可能なバックアップオフィス機能の強化

松戸駅周辺の公共・公益的施設整備イメージ

松戸駅

東西アクセスの改善による 駅機能の強化

東西自由通路の利便性向上

- 交通結節点として改札外コンコースと自由通路を統合した利用しやすい改札外通路を整備

松戸駅周辺ゾーン

駅周辺のアクセス性を高める 交通ネットワーク

交通結節機能の強化

- 鉄道や羽田・成田へ向かう高速バスなど各交通機関への円滑な乗換えが可能な駅前広場の新設や再整備
- 地区に不足する駐輪・駐車場の改善
- 駅周辺における、市街地再開発事業とあわせた建築物と公共施設の一体的な整備

駅から周辺施設へのアクセス強化

- 市街地再開発事業とあわせて歩行者アクセスを改善する歩行者デッキの整備

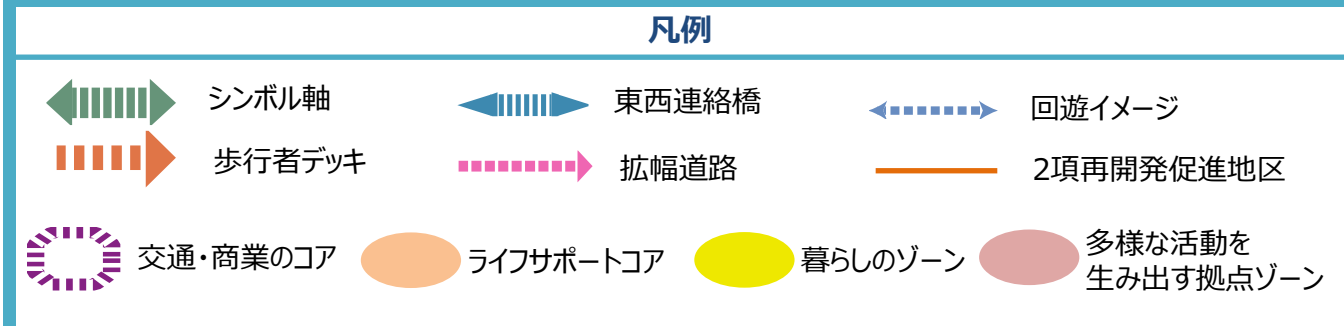
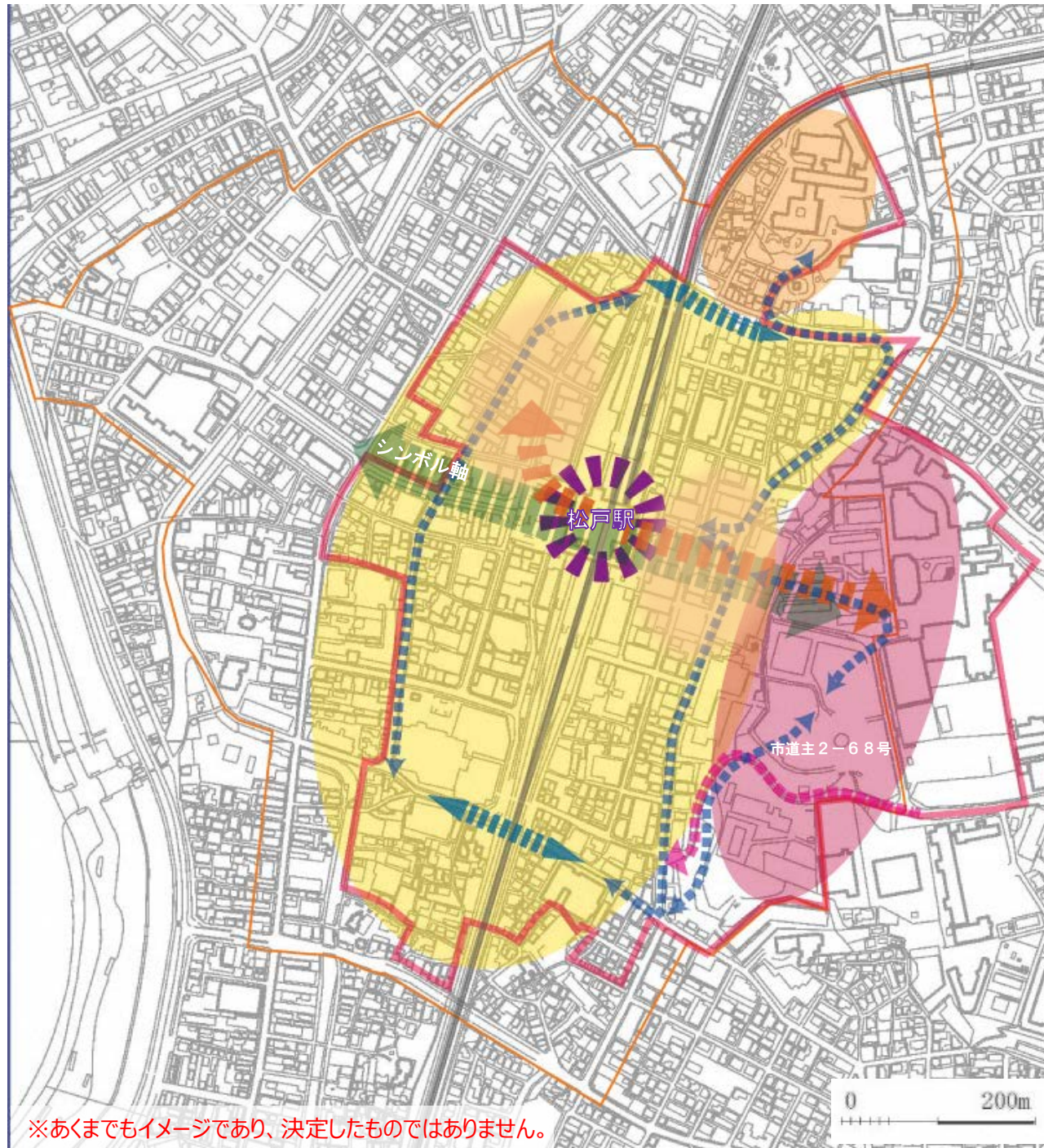
歩行者ネットワークの向上

- 東西の回遊性向上のため、線路で分断された南・北の2か所にバリアフリー化された歩行者用の東西連絡橋を整備

シンボル軸の景観形成

- 新拠点ゾーンから松戸駅西口へとつながるシンボル軸にふさわしい景観を形成するため、沿道建物の形態・色彩などを誘導

<東口デッキイメージ>



本庁舎跡地

利便性の高い生活支援機能 の充実

- 子育て世代から高齢者世代まで、誰もが働きやすく暮らしやすい生活支援機能の整備

新拠点ゾーン

Work Life Cityのモデル的展開

公園を中心とした公共公益施設の集約

- 土地区画整理事業により、松戸中央公園を中心に文化・業務・商業施設が一体となり充実した時間を過ごせる空間の整備
- 市民ニーズに柔軟に対応し、だれもが利用しやすい親しまれる本庁舎の整備
- 多様なアクティビティが展開する人々の交流の場であるとともに、非常時には公共施設と連携し、被災者や帰宅困難者の一時的な避難場所となる松戸中央公園の再整備

IoT活用による情報ネットワーク整備

- テレワーク推進のための環境整備や、災害時の市民・帰宅困難者等に向けた情報伝達手段としてのWi-Fi等の整備

面的なエネルギーマネジメント

- 再生可能エネルギーの活用による環境にやさしい低炭素化の促進と合わせて、面的で自立したエネルギーマネジメントの検討

新拠点ゾーンへのアクセス強化

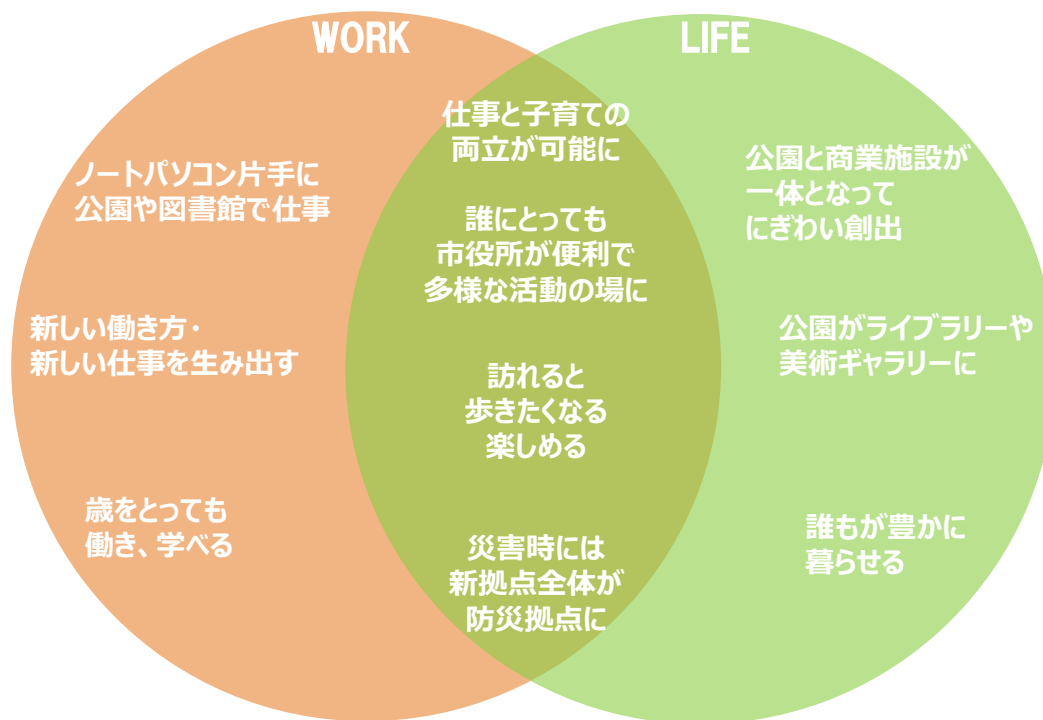
- 駅周辺市街地と新拠点ゾーン、国道6号をつなぐ市道主2-68号の相互通行化
- 国道6号の交差点の改良
- 歩行者のバリアフリー動線の確保

Work Life City 松戸の実現に向けて都市再生緊急整備地域のなかで最も重要かつ緊急性が高い事業である 新拠点ゾーンを最初に整備し、緊急整備地域全体への波及につなげていく

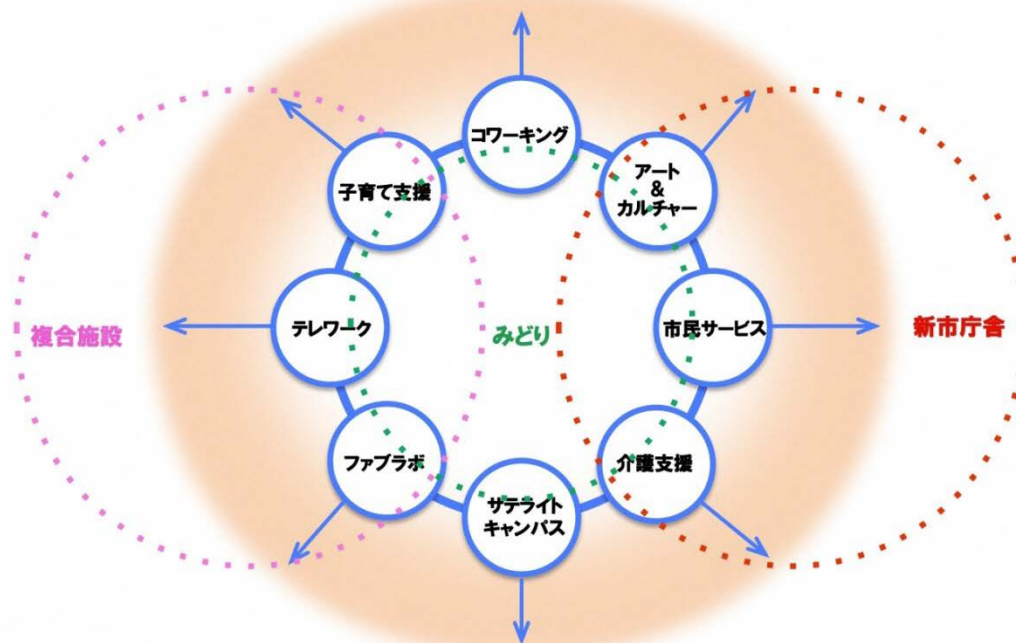
新拠点ゾーンでの取り組みイメージ

ひろばを中心とした隔てのない空間により、 ワークスタイル・ライフスタイルが変わる場を創出

新拠点ゾーンで展開される活動



ひろばを中心とした空間イメージ



「新しい働き方の実現」をサポートする場

子育て世代やシルバー世代を含めた、在宅のテレワークやコワーキングを含む多様な働き方をサポートする機能
ex. シェアオフィス・コワーキングスペース・保育施設・介護施設

時間と場所を共有する場

様々な時間を過ごせる機能
ex. 本庁舎・図書館・市民会館・美術ギャラリー・複合商業施設・サテライトキャンパス

IoT活用による情報ネットワーク基盤

・平時はテレワークを推進し、有事は市民や帰宅困難者等への情報伝達手段となるセキュアで利便性の高い超高速・大容量のWi-Fi環境を整備

仕事/暮らし/学び/遊びが つながる場

新しい郊外のライフスタイルを实践し、仕事と暮らし、学びと遊びがボーダーレスにつながる機能
ex. 松戸中央公園（広場）

災害に対するレジリエンス （復元力）の確保

災害時の一時的な避難や速やかな復旧と事業の継続性を確保するための中心的な拠点機能
ex. 本庁舎・松戸中央公園（一時避難・帰宅困難者受け入れ）

面的で自立した エネルギーマネジメント

- 再生可能エネルギーの活用による環境にやさしい低炭素化の促進と合わせた面的なエリア内配電の整備
- 系統停止時には、エリア内の面的なシステムを利用して本庁舎等のBCP対応を整備

1 2 3

インキュベーション施設運営業務

商工振興課企業立地担当室

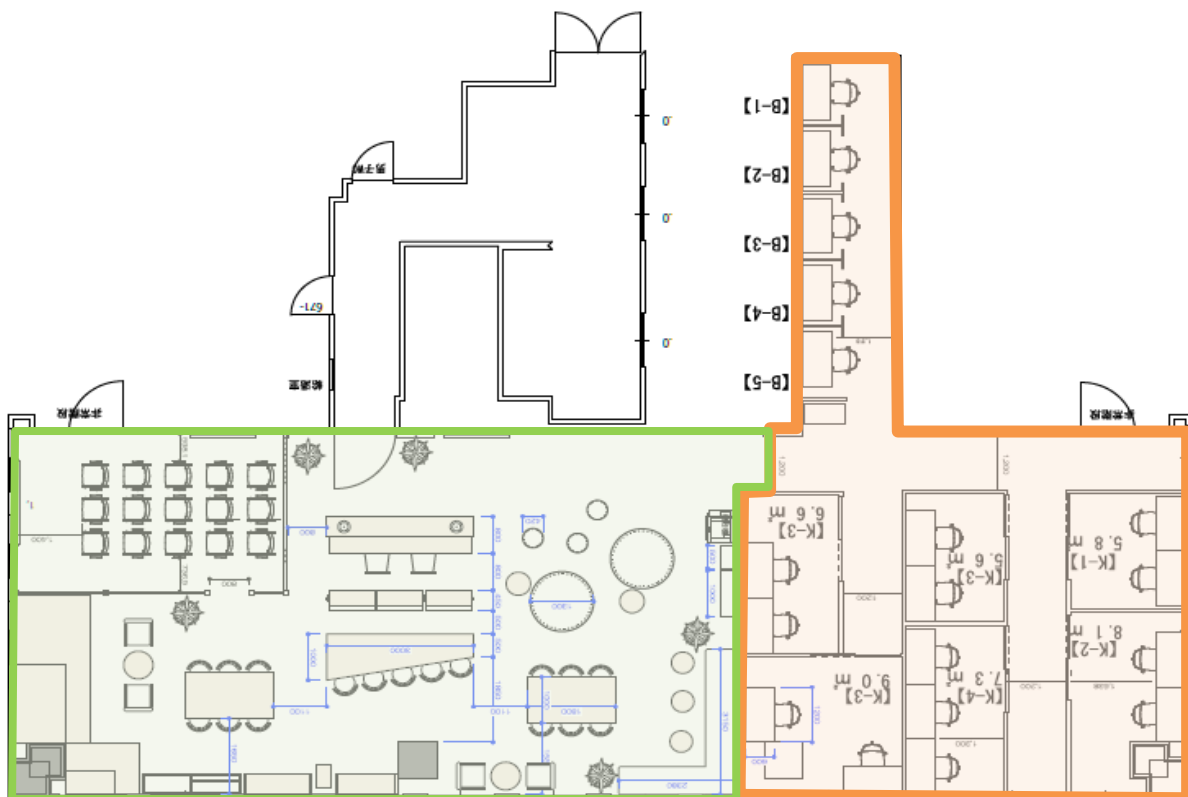
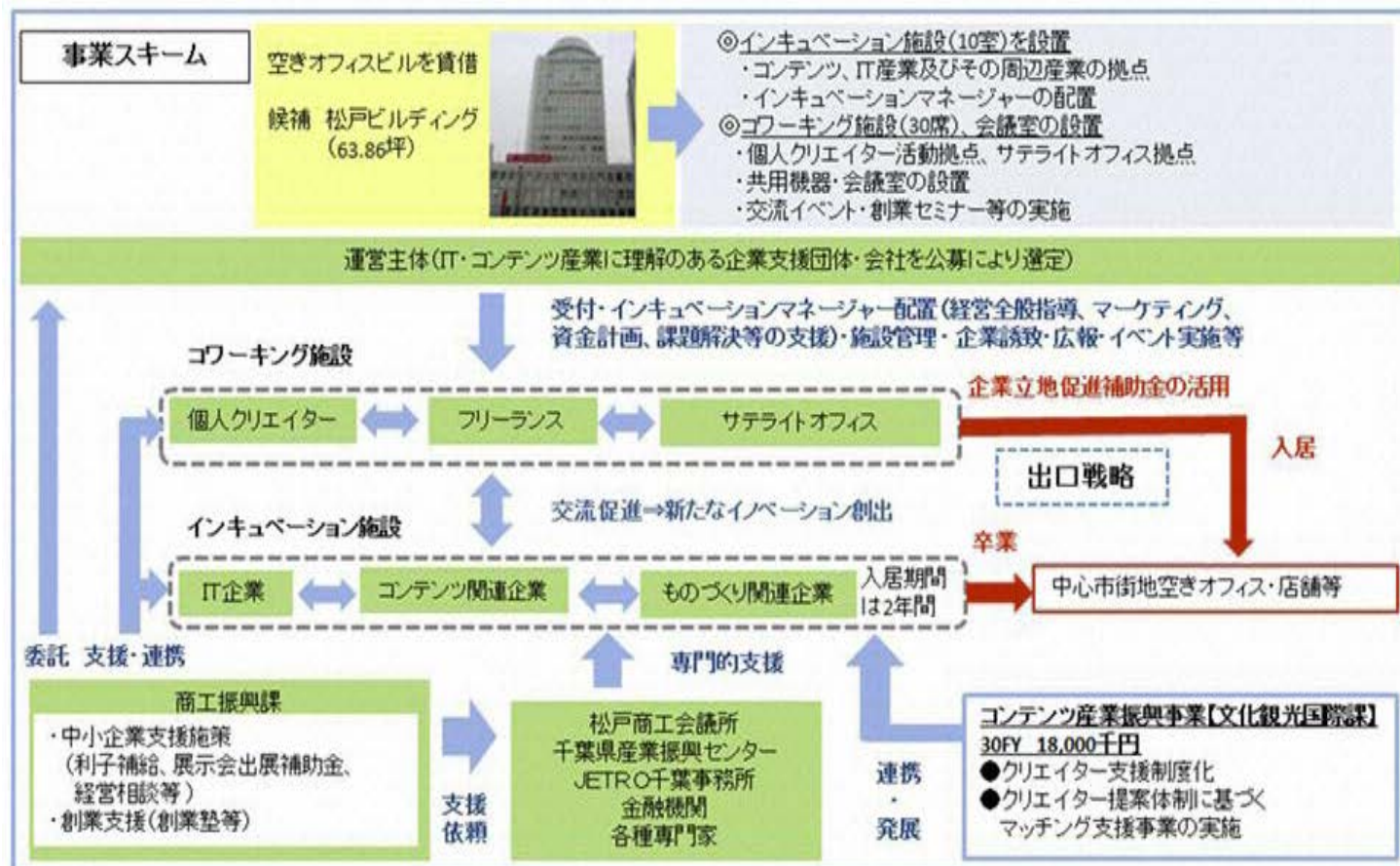
○「コンテンツ産業」を切り口としたインキュベーション施設を設置。
ベンチャー企業等に対し、安価な賃料で事業用スペースを提供することで、市内におけるITやコンテンツ産業などの拠点とする。また、知見を有するインキュベーションマネージャーを配置し、創業を支援するとともに、企業育成を行う。

○場所や時間にとらわれない働き方を実現するため、個人のクリエイターなどフリーで活動する方の拠点や企業のサテライトオフィスの拠点となるようコワーキング施設を併設する。

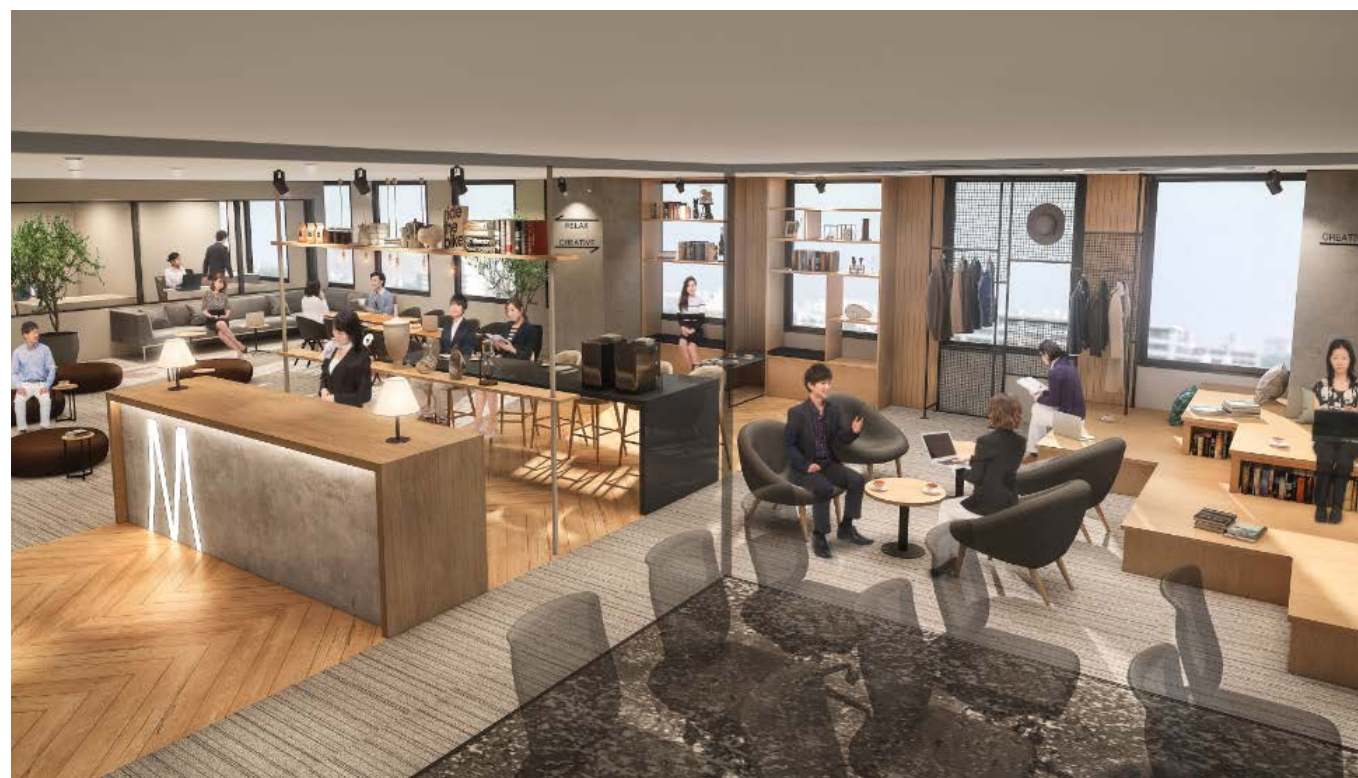
○更に、インキュベーション・コワーキング施設の入居者同士との交流イベントやセミナーなどを開催することで、新たなイノベーションを生みだすことができる空間として機能させる。

インキュベーション施設「松戸スタートアップオフィス」について

- 名称 松戸スタートアップオフィス
- オープン 平成31年4月1日(予定)
- 開設場所 松戸ビル13階(面積63.86坪)
- 営業時間 9時～21時(インキュベーション施設は24時間入退室可能)
- 施設概要 インキュベーション施設(個室6室、ブース席5席)
コワーキングスペース30席
会議室、Wifi、複合機等



施設配置

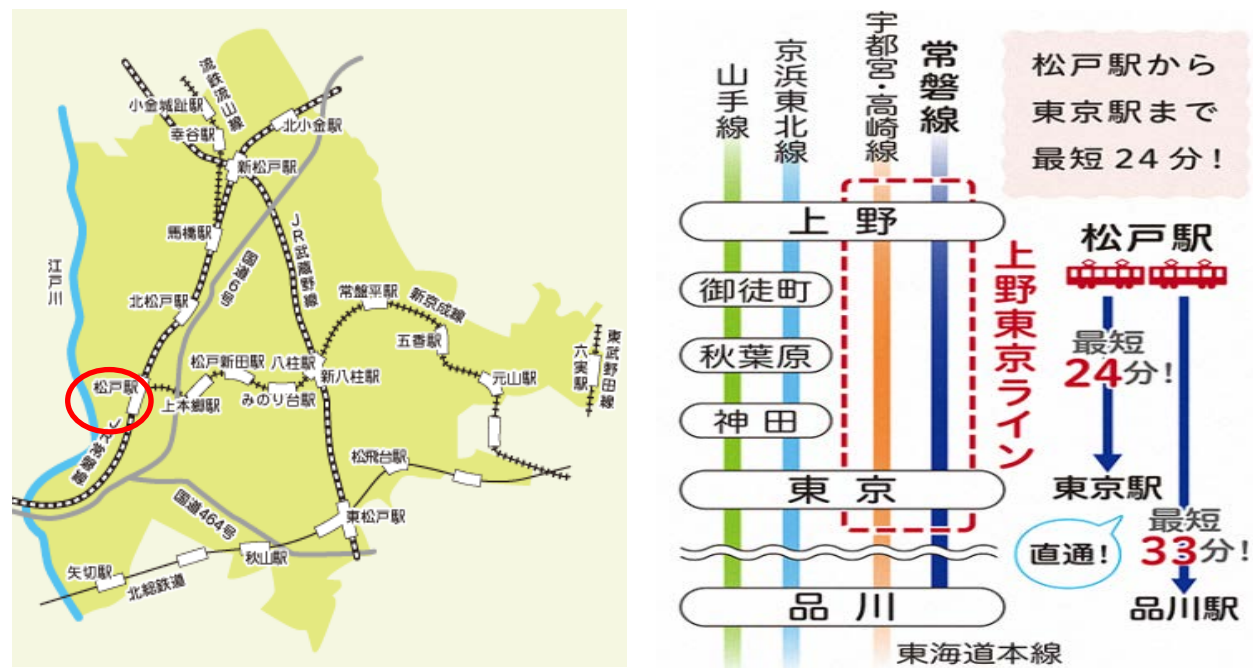


オフィスイメージ

① ② ③ 松戸市のサテライトオフィスニーズ

a. 都心近郊で高い交通利便性

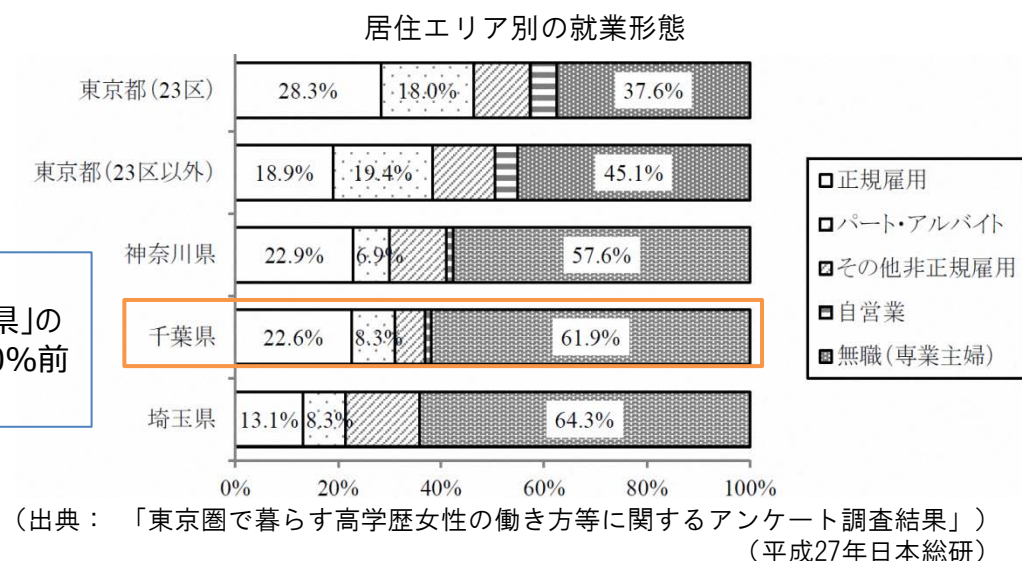
- ・鉄道6路線、バス24路線69系統が整備
- ・「上野東京ライン」の開通により東京駅まで最短24分（9分短縮）品川駅までは最短33分（8分短縮）となり、アクセスが向上。
（上野東京ライン：平成27年3月14日開通）



b. 潜在的に労働力が高く、人材が豊富

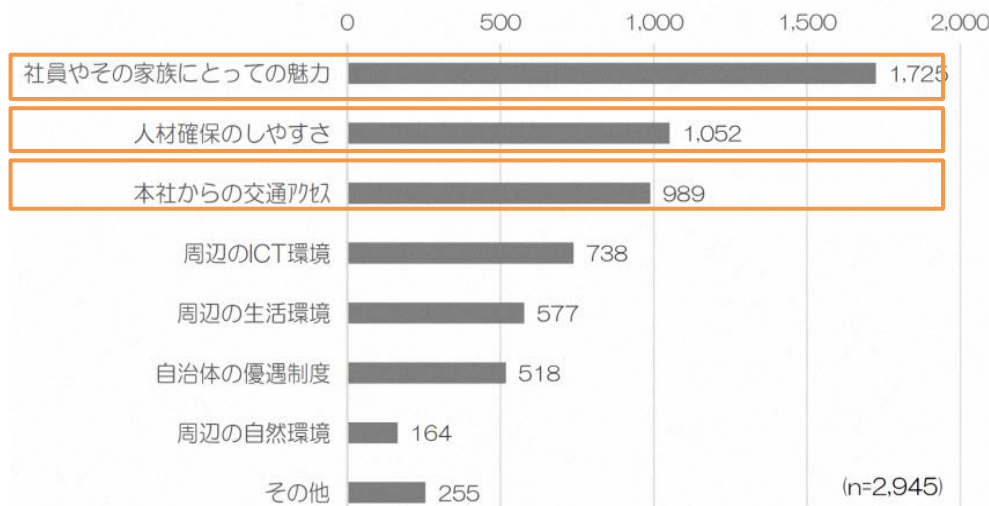
・多くの企業が都心部にオフィスを構えているため、子どもがいないうちは職住近接のために23区内に居住しながら正規雇用として働くが、子育てを行う専業主婦となると、世帯年収の減少や子育て環境への考慮から、東京近郊都市に居住することが想像できる。しかし、働く時間や場所を柔軟に選択できる環境整備づくりが進められると、仕事と家庭の両立がしやすくなり、東京近郊都市に住む女性が望むライフスタイルの選択肢が増えると考えられる。

「神奈川県」「千葉県」「埼玉県」の専業主婦率が60%前後となっている。



● 民間企業のサテライトオフィス設置ニーズ

サテライトオフィスの導入・検討にあたり重視する点



松戸市はサテライトオフィス誘致の潜在的な魅力を有する

- ① 居住地からの近さ・生活利便性
- ② 交通利便性

a. 都心近郊で高い交通利便性

- ③ 人材の豊かさ

b. 潜在的に労働力が高く、人材が豊富

①② 子育てサポート・就労(リカレント)支援状況

a. 子育て支援施設や子育てサポートが充実

- ・「日経DUAL 共働き子育てしやすい街ランキング2017 (全国編)」で1位獲得 (受賞ポイント)
- ・3年連続待機児童ゼロ (国基準)
- ・市内全23駅の駅前、駅ナカに小規模保育施設を設置
- ・保育士へ松戸手当を支給 (市独自の給料上乘せ)
- ・幼稚園での預かり保育の充実
- ・市内全45小学校区に放課後児童クラブを完備
- ・病児、病後児保育の充実
- ・産後ケア、乳児家庭全戸訪問等の実施による切れ目のない支援
- ・5歳児から中学3年まで10年間の松戸英語の実施

b. 子育てしながら働きたい女性に向けた相談窓口が整備

- ・働きたい女性の就労に向けた就労相談や起業アドバイス、就労時の課題となる子育て支援、介護支援への情報を提供する総合的な相談窓口を設置。
- ・子ども連れでも利用しやすいよう、同フロアでの一時預かりサービスも実施
- ・平成28・29年度は、116人利用のうち21人が就職。
- ・松戸市における女性就労率の目標達成。
 目標値：63% 実績値：69.4%
 (調査対象：松戸市に居住する20歳以上の女性)
 (抽出方法：層化無作為抽出)



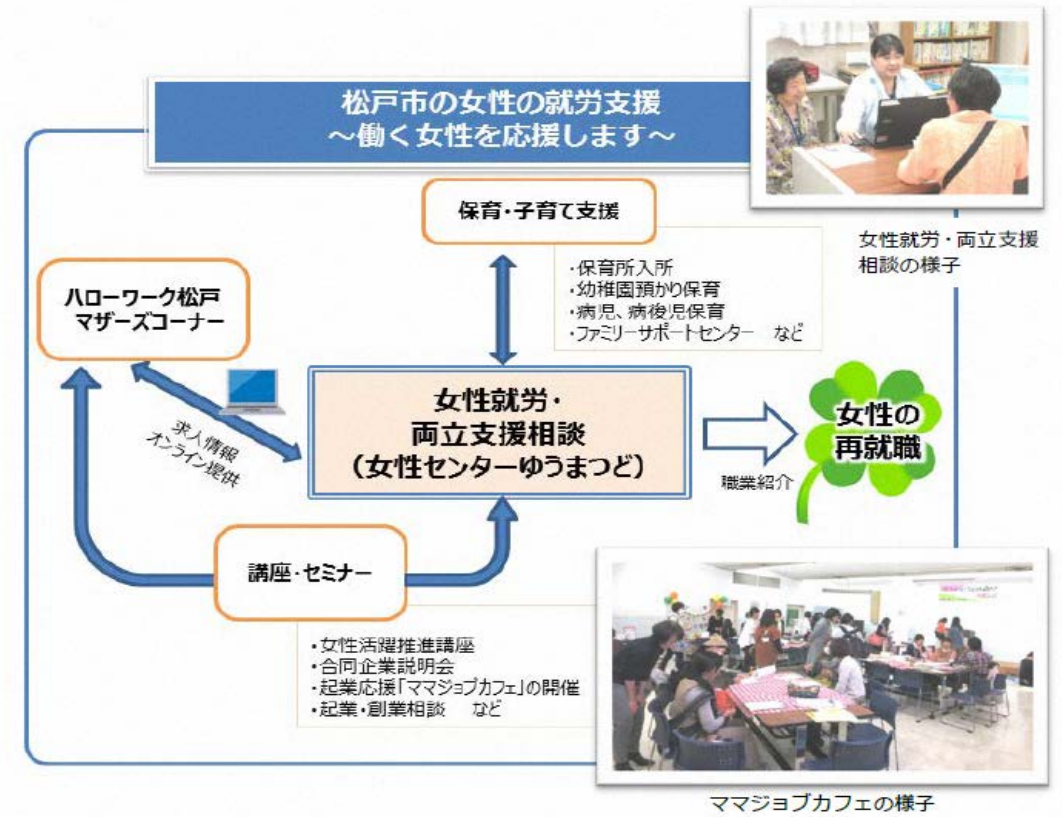
保育士へ市独自の手当を支給



保育施設の整備



放課後児童クラブ整備 (出典：松戸市HP)



働きながら子育てしやすい環境が充実しており、女性の再就職支援へ向けた支援にも取り組んでいる

2 住環境整備への取り組み

a. 三世同居近居補助制度の実施

- 子育て世代の誘致に向けて、新たに親元に住まいを取得する子育て世帯を対象とした補助制度を実施。
- 補助金を動機付けとした転入世帯割合は52.6%、市内移動世帯は18.8%。市外転入者が市内移動世帯を上回っている。



松戸市(平成30年4月1日改正版)
 子育て世帯に最大100万円の補助金を支給!
 親元に近居・同居する子育て世帯の住宅取得を応援します!
 近居なら50万円 ※2km以内
 同居なら75万円
 さらに市外から転入の場合は25万円加算
 さらに住宅金融支援機構の[フラット35]の借入金利から当初5年間、年0.25%引き下げ
 手続きの流れ: 松戸に住もう! → 事前相談書提出 → 住宅取得契約
 出典: 松戸市HP

三世代分析研究概要書 (第1回協議会資料より)

施策効果の種類	補助種別	補助額合計	全体件数	効果件数 補助金を動機とした件数	直接効果項目年額		回収期間(年)
					住民税	固定資産税	
呼込効果 (転入)	新築	同居	38	20	0,740 (437)	1,449 (72.5)	2.9
		近居	31	18			
	中古	同居	7	0			
		近居	7	2			
転出抑制効果 (市内移動者)	新築	同居	64	12	3,983 (332)	711 (59.3)	7.2
		近居	58	9			
	中古	同居	6	0			
		近居	6	3			

b. 空家の対策と活用

- 空家の多様な活用を進めるため、地域のまちづくりに資するような空家の利活用に対して補助金を交付する。
(こけし荘リノベーション: 千葉大園・まちづくりエイトイブ)



・原田米店は、民間事業者が築104年の古商家(空家)を活用し、11組のアーティストやクリエイターの活動拠点となっている。



原田米店 (まちづくりエイトイブ)



これまで培われた良好な住環境を生かしつつ
 多世代が暮らしやすい環境整備に取り組んでいる

① ③ クリエイティブシティ推進の取組み

a. アーティストの誘致、アートイベントの開催

- 元ラブホテルを改装したアーティスト・イン・レジデンス「PARADISEAIR」では、海外アーティストが滞在・制作・発表を行っている。年間約600組の応募があり、4年間で約150組が滞在。駅周辺のまちなかには、滞在したアーティストの作品が残されている。
- 2018年10月には「科学と芸術の丘2018」と題して戸定が丘を中心に、世界的メディアアートの専門機関「アルスエレクトロニカ」、東京大学宇宙線研究所、東京大学デザインラボ、千葉大学園芸学部、などと協力・連携した国際アートフェスティバルを地域の若手アーティスト・クリエイター等が運営して開催した。



PARADISE AIR 外観
(出典:松戸市文化観光国際課)



西口公園トイレ
(出典: PARADISE AIR HP)



科学と芸術の丘2018
(出典:松戸市文化観光国際課)



b. コンテンツ産業の振興

- 松戸市にゆかりのあるバンダイナムコやタツノプロと連携して、成長産業であるコンテンツ事業者誘致に取り組んでいる。
- 「松戸コンテンツ事業者連絡協議会」を設立し、現在34事業者が加盟。市内事業者のネットワークづくりやマッチング支援等に取り組んでいる。
- 大手コンテンツ事業者と連携したイベントを開催。
(イベント例) 松戸花火大会にてアニソンTV番組とタツノプロが共同イベント
Cygamesによるゲーム作り体験イベント
バンダイナムコによる謎解きイベント



コンテンツ産業の振興
(出典:松戸市文化観光国際課)



松戸花火大会
(出典:松戸市花火大会実行委員会事務局)

c. 鉄道沿線のポテンシャル

- 東京メトロ千代田線は、コンテンツ産業が集積している渋谷・原宿に通じている。
- JR常磐線沿線では、上野・北千住・取手に東京藝術大学のキャンパスがあることから沿線の4区と4市（台東区・荒川区・足立区・葛飾区・松戸市・柏市・我孫子市・取手市）及び、東京藝術大学、JR東日本東京支社が「アート」をキーワードとして関わりながら常磐線沿線のイメージアップと活性化を目的として「街」や「人」をつなげていく「JOBANアートライン」という取り組みを行っている。

常磐線開業120周年記念ポスター
(出典:松戸市HP)



クリエイティブ産業の拠点形成に向けて取り組みを進めている

4 地元大学と連携した取り組み

a. 地元大学の取り組み

聖徳大学の子育てサポート

- ・子育て中の親と子の交流の場、子育ての相談の場を提供。また、地元大学の教員や保育者を目指す学生が子育てに関する情報提供等を行う“ゆるりん”講座や手遊びイベント等を開催。
- ・保育や子育て支援の事業に従事するために必要な知識や技能を修得する「子育て支援研修」を地元大学の運営で開催。修了者は「松戸市子育て支援人材バンク」等に登録し地域の子育てを支える人材となる。平成27年度までで44名が登録している。



聖徳大学での取り組み（出典：聖徳大学HP）

千葉大学園芸学部と住民による取り組み

- ・学生と住民が共同で取り組むコミュニティガーデンの運営や、戸定祭（大学祭）での果物や野菜、苗の販売に取り組んでいる。



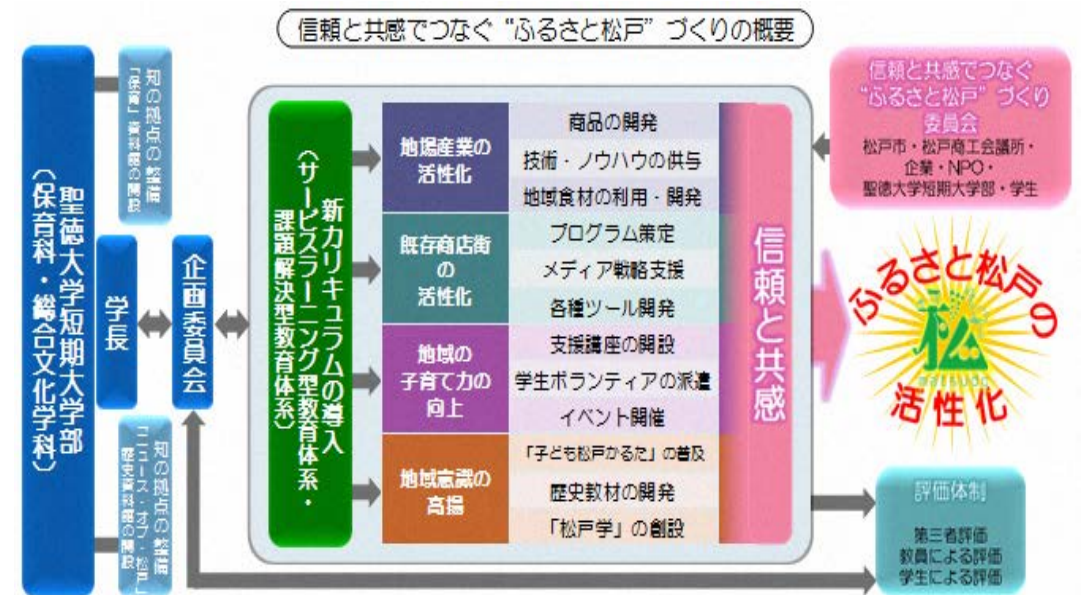
「戸定みんなの庭」の取り組み（出典：千葉大学HP）



戸定祭での花卉販売（出典：千葉大学HP）

b. 地元大学との連携による地域の課題解決

- ・松戸市は、市内にキャンパスを構える4大学（千葉大学、聖徳大学・聖徳大学短期大学部、流通経済大学、日本大学松戸歯学部）と連携協定を締結。地域社会の発展や地域の課題解決に向けた取り組みを実施。
- ・上記4大学以外も含め、平成29年度現在で120件の連携事業を行っている。
連携概要：① 相互の教育機能の向上に関する連携
② 各大学の個性を生かしたまちづくりの推進に関する連携
③ 人的、物的交流に関する連携
- ・産学官連携による新しい都市ブランドの構築、新たなビジネスモデルの創出をめざし、地元大学と商工会、農業組合、行政による懇談会を設置。



聖徳大学短期大学部での取り組み（出典：聖徳大学HP）
文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に基づく体制図（平成25～29年度）

大学と連携して地域支援・課題解決を行っていく体制が整っている

3 4 6 災害に強い最先端都市基盤 “松戸” 産学官連係により実現

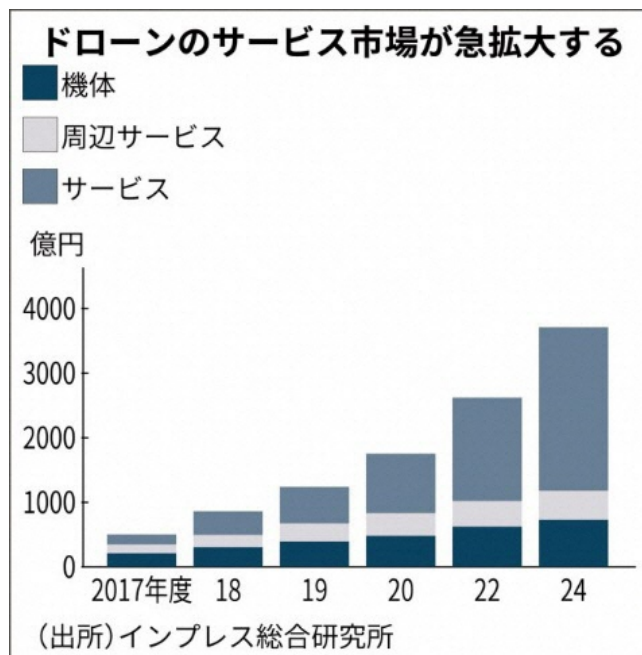
●ドローン市場 現状と成長予測

国内におけるドローンビジネス市場規模は年々拡大しており、2024年度には

- ・サービス市場が 2,530 億円 (2017年度の約 16 倍)
- ・機体市場は 730 億円 (2017年度の約 3.5 倍)
- ・周辺サービス市場が 451 億円 (2017年度の約 3.3 倍)

と予測されている

参考:「インプレス総合研究所 『ドローンビジネス調査報告書 2018』」



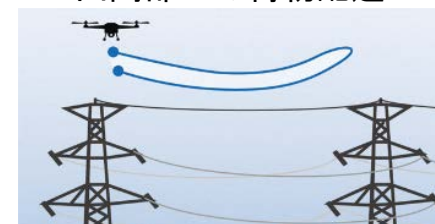
■代表的な活用シーン



山間部への荷物配送



農業分野での活用



鉄塔や橋梁などインフラ点検

これらに加え警備や災害対策、エンターテインメント業界においてもドローンが導入されている

a.未来都市・松戸市における最先端ドローン技術の活用(イメージ)

次世代のインフラ「空」をドローン向けに活用(都市の三次元化)モノ、人、サービスの緊急性や需要度を考慮し使い分け



<平常時>

- ・ビルの屋上から屋上へドローンタクシー
- ・警備ドローン巡回(通学路、夜道など)
- ・アグリテックと畑から消費者を直接結ぶ 新たな近郊農業の形
- ・作物育成管理—農薬散布
- ・市町村インフラ自動点検

- ・ホバーバイク
- ・ドローンツーリズム
- ・ドローン基地
- ・医薬品や血液など、緊急医療用のドローン輸送
- ・イベント、エンターテインメント (空中ショー、花火的な使い方、レース)

<災害時>

- ・被害状況の把握、物資輸送
- ・救助、避難誘導、消火活動など

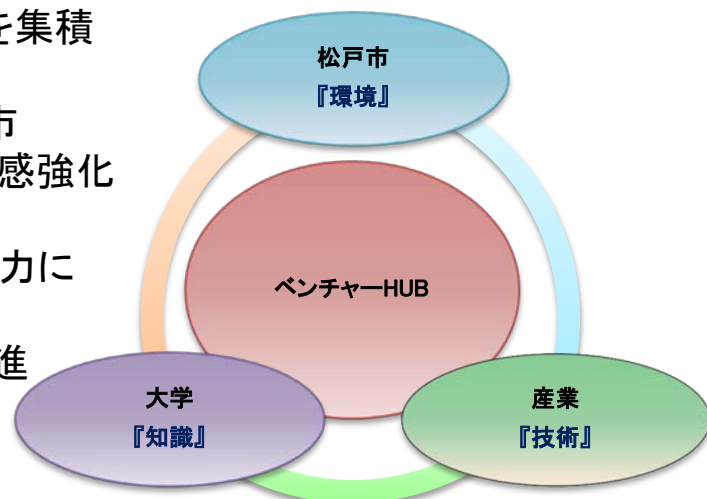
空の移動革命に向けた官民協議会 (MITI) <http://www.miti.go.jp/press/2018/08/20180824001/20180824001.html> 2018年8月24日発表資料

3 4 6 災害に強い最先端都市基盤 “松戸” 産学官連係により実現

b. ドローンに関する先進的な知見の集積により 外部企業を誘引しドローン文化を創造

I. 首都圏近傍である松戸でのドローン活用実証

- ベンチャーHUB ※によりドローンに関わる先進的な知見を集積
- ドローン活用のトップランナー都市となり 国内外での競争力・存在感強化
- 松戸市へ進出した企業の外部活力により都市再生緊急整備地域にふさわしいまちづくりを強力に推進



※ベンチャーHUB

ドローン研究と実証とを繰り返し社会への実装を目指す場

II. 首都圏近傍である松戸でのドローン文化の創造

【具体例】

- ドローン操縦の授業を市内小学校で実施 → 操縦士育成カリキュラム
- 公共施設においてトイドローン操縦体験
- 河川敷でのドローンレース 等々…



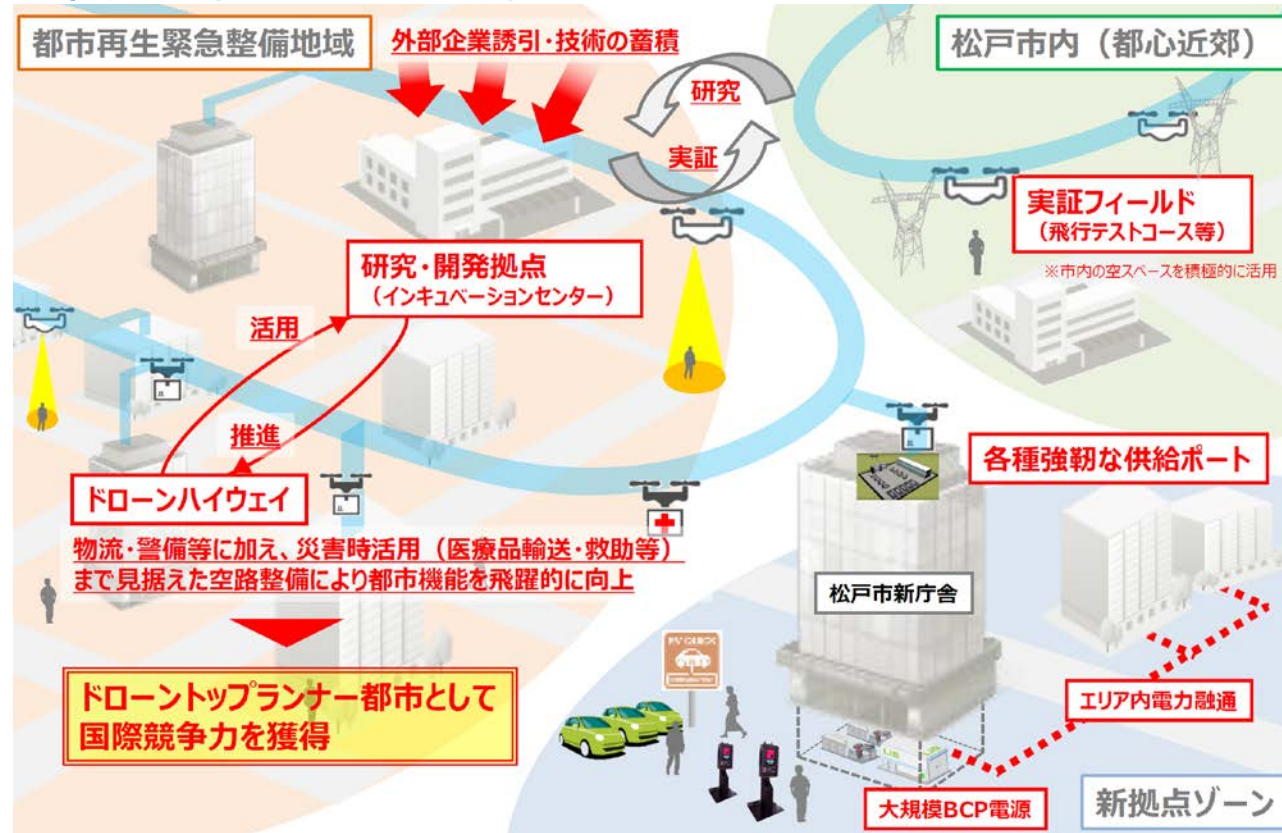
shutterstock.com • 661377880



shutterstock.com • 608133674

ドローンに慣れ親しむことのできるフィールドを構築

●松戸市 都市再生緊急整備地域などにおけるドローン活用イメージ



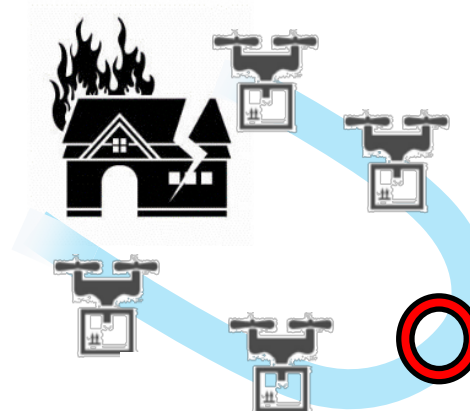
c. 強靱な災害拠点(新拠点ゾーン)の構築

大規模災害を想定したドローンハイウェイ※の強靱化

- 大規模な自然災害発生時等、インフラ系統断絶時にも機能継続可能な強靱な災害拠点として面的電力融通により新拠点ゾーンを整備
- ドローンハイウェイにおいては、大規模災害時にもドローンの継続活用を可能とするドローン電力供給ポートを整備

※ドローンハイウェイ

ドローンの安全飛行をインフラ側から支援するドローン専用の飛行空域・空路

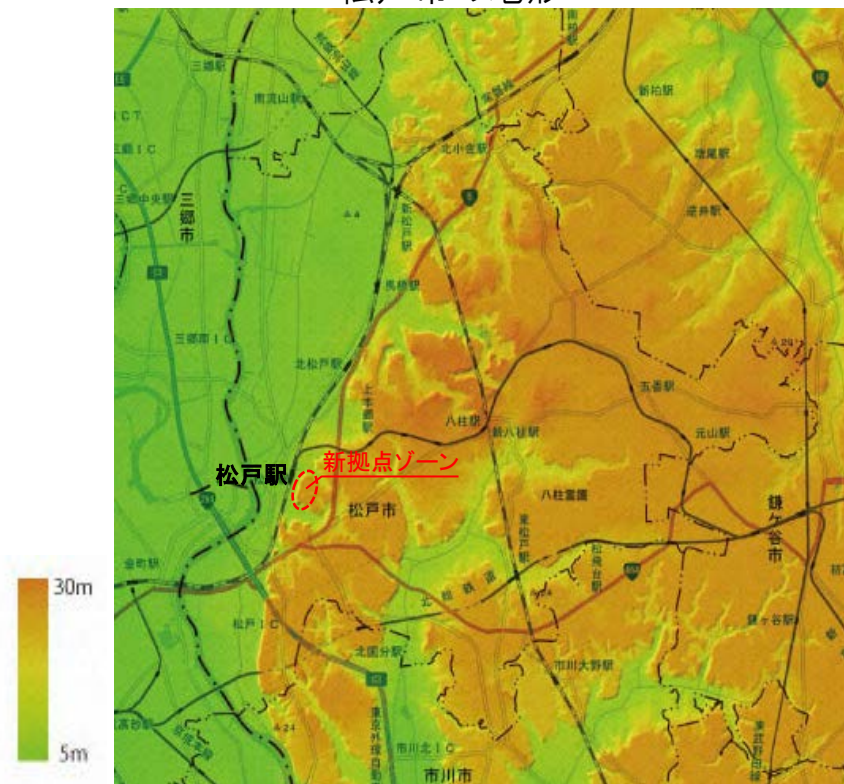


5 松戸市の豊かな自然環境

a. 高低差が明瞭な地形構造

- 江戸川沿いの沖積層の低地と洪積層の台地のコントラストが明瞭な地形構造。
- 松戸駅は軟弱な地盤の低地に位置している。一方で、新拠点ゾーンの位置する相模台は地盤も安定した台地上に立地し、約20mほどの高低差がある。

松戸市の地形



(出典：国土地理院「標準地図」「識別標高図」を加工して作成)

b. 緑豊かな環境

- 松戸駅周辺には、江戸川や坂川、松戸中央公園、千葉大園芸学部などの水・みどり資源が点在している。
- 特に都心近郊でありながら、駅近くに近隣公園のみどり豊かな環境を有している。



**豊かな自然環境があり、今後新拠点ゾーンの
開発に併せて松戸中央公園の再整備が行われる**

5 松戸市の文化的資源

a. 旧千葉大学工芸学部(現千葉大学工学部)のデザイン教育

- ・1945年、先駆的なデザイン教育を行っていた東京高等工芸学校を前身とする旧千葉大学工芸学部（現千葉大学工学部）が東京から相模台地区に移転。以後、約20年間松戸にあって、戦後日本のデザインを支えるデザイナーや芸術家を輩出した。

＜卒業生の作品＞



「明治ミルクチョコレート」ポスター
(大橋正)



籐丸椅子(剣持勇)



書棚(渡辺力)

出典：松戸市HP



日本のデザインの発展を支えた地である

6 大規模災害発生時の松戸駅周辺の想定

a. 駅周辺に多くの人集中

災害発生時の駅周辺の想定

- (1) 信号の停止により、事故や交通渋滞が発生
- (2) 駅周辺の商店街、施設等の利用者が、情報を求めて一時的に駅に集中
- (3) 各施設は、可能な限りで利用者を施設内に留めるものの、安全が確保できない場合は、利用者が駅周辺に滞留また、駅近辺を走行していた鉄道の利用者が駅に誘導され、駅舎から利用者があふれ出る
- (4) 国道6号線沿いの徒歩帰宅困難者が情報収集のため駅周辺に集まる

(出典：松戸駅周辺エリア防災計画(平成29年))

b. 一時滞在施設収容人数を上回る帰宅困難者数

平日昼12時に大機後地震が発生した場合の帰宅困難者数

松戸駅 帰宅困難者数	約7,880人(その他、国道6号徒歩者も想定される) (駅:約7,300人、通過列車乗客:約580人)
一時滞在施設 収容人数	約1,600人 (市民会館約1,000人、市民劇場約300名、東葛飾合同庁舎290名)
(参考)松戸市 帰宅困難者数	約32,700人

(出典：千葉県地震被害想定調査(平成28年3月))



●松戸中央公園の再整備にあわせた防災拠点化

松戸駅周辺に、一時滞在施設の収容範囲を超えた帰宅困難者を誘導する安全な空地の確保が求められている。

**松戸中央公園の再整備にあわせて、
滞留者・来訪者の安全を確保する防災拠点を整備**

- ①情報発信 ②一時退避場所 ③徒歩帰宅支援 ④備蓄(飲料・食糧) トイレなどの提供

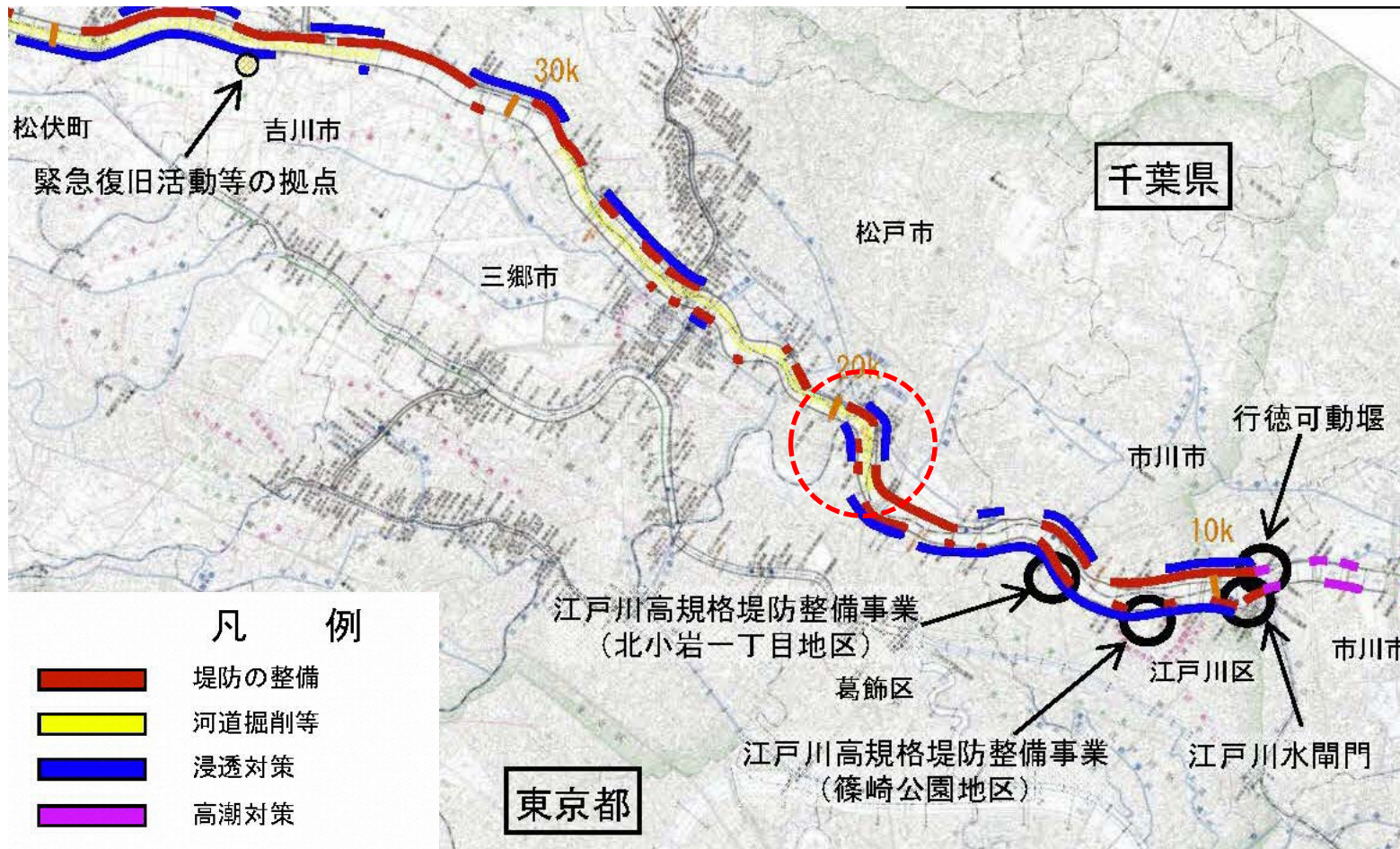
松戸中央公園



6 松戸駅周辺の防災性向上への取り組み

浸水想定区域における取り組み

- ・松戸駅西側の浸水想定区域には、商業や居住用地として市街地が形成されており、江戸川河川整備計画において、堤防の整備・強化が位置づけられている。
- ・加えて、今後、水害発生時に対応できる避難体制の構築や市指定避難場所の十分な周知、避難計画の策定等災害リスク軽減に向けた施策展開により安全性を確保していく計画であり、この計画を受け、立地適正化計画の居住誘導区域に含まれている。
- ・水害発生時の避難誘導に関しては、防災行政無線のほか、報道機関等に情報が直結している「Lアラート」、「携帯電話のエリアメール」など、情報伝達手段を多様化し、市民への確実な情報伝達と避難誘導に努めている。



洪水対策等に関する施行の場所
「利根川水系 利根川・江戸川河川整備計画」
(平成29年変更国交省)



水害対策の計画に基づき整備が行われている